

補遺3 各種実験動物のための最小飼育スペースの推奨値

2010年に米国National Research Councilから「実験動物の管理と使用に関する指針・第8版」が出版されており、そこには実験動物の最小飼育スペースの推奨値が示されている。

実験用げっ歯類のための最小飼育スペースの推奨値

動物種	体重	床面積/匹 ^a		高さ ^b	
	g	in ²	cm ²	in	cm
マウス (群飼育) ^c	<10	6	38.7	5	12.7
	15まで	8	51.6	5	12.7
	25まで	12	77.4	5	12.7
	>25	≥15	≥96.7	5	12.7
備考：より大型の動物は、その行動形態に合うより広いスペースが必要な場合がある。					
マウス (母親+哺育子群)	—	51	330	5	12.7
備考：繁殖形態によっては、これより広いスペースが必要な場合がある。飼育スペースは親動物・哺育子の匹数、ならびに子動物の大きさ・齢によって決まる。 ^d					
ラット (群飼育) ^c	<100	17	109.6	7	17.8
	200まで	23	148.35	7	17.8
	300まで	29	187.05	7	17.8
	400まで	40	258.0	7	17.8
	500まで	60	387.0	7	17.8
	>500	≥70	≥451.5	7	17.8
備考：より大型の動物は、その行動形態に合う、より広いスペースが必要な場合がある。					
ラット (母親+哺育子群)	—	124	800	7	17.8
備考：繁殖形態によっては、これより広いスペースが必要な場合がある。飼育スペースは親動物・哺育子の匹数、ならびに子動物の大きさ・齢によって決まる。 ^d					
ハムスター ^c	<60	10	64.5	6	15.2
	80まで	13	83.8	6	15.2
	100まで	16	103.2	6	15.2
	>100	≥19	≥122.5	6	15.2
備考：より大型の動物は、その行動形態に合う、より広いスペースが必要な場合がある。					
モルモット ^c	350まで	60	387.0	7	17.8
	>350	≥101	≥651.5	7	17.8
備考：より大型の動物は、その行動形態に合う、より広いスペースが必要な場合がある。					

- 単飼いの動物および小さい群の動物には、表に示されている1匹あたりの床面積に、該当する匹数を乗じた面積より広い飼育スペースが必要になる場合がある。
- ケージの床面からケージの上端まで。
- 性別・系統ごとの成長特性を考慮する必要がある。体重増加が早いこと、若齢のげっ歯

類は活動性が高いことを考慮し、より広いスペースを提供することが望ましい。

- d. 場合によっては同腹子を間引きしたり、繁殖群から分けたりすることを検討する。哺育子と一緒に母親には十分な飼育スペースを提供し、ともに悪影響を与えることなく、離乳まで成長できるようにしなければならない。

ペア飼育または群飼育しているウサギ、ネコ、およびイヌのための最小飼育スペースの推奨値

動物種	体 重	床面積／匹 ^a		高さ ^b	
	kg	ft ²	m ²	in	cm
ウサギ	<2	1.5	0.14	16	40.5
	4まで	3.0	0.28	16	40.5
	5.4まで	4.0	0.37	16	40.5
	>5.4 ^c	≥5.0	≥0.46	16	40.5
備考：より大きなウサギには、上半身を起こすことができるように、これより高いケージサイズが必要な場合がある。					
ネコ	≤4	3.0	0.28	24	60.8
	>4 ^c	≥4.0	≥0.37	24	60.8
備考：休息棚を設置した、垂直方向に広がりのある空間が望ましい。したがってこれより高いケージが必要な場合がある。					
イヌ ^d	<15	8.0	0.74	- ^e	- ^e
	30まで	12.0	1.11	- ^e	- ^e
	>30 ^c	≥24.0	≥2.23	- ^e	- ^e

備考：ケージはイヌが肢を床面に置いて楽に直立できるよう、十分な高さがなければならない。

- a. 単飼いの動物には、ペア飼育あるいは群飼育の動物にくらべて、表に示されている1匹あたりの数値より広い飼育スペースが必要になる場合がある。
- b. ケージの床面からケージの上端まで。
- c. より大きな動物には、その行動形態に合う、より広いスペースが必要な場合がある。
- d. 個体や品種の体型により、修正を要する場合がある。各体重域の上限に位置するイヌでは、「動物福祉法」の規定への遵守を保証するために、さらに広い飼育スペースが必要な場合がある。「動物福祉法施行規則1985」には、ケージは動物が“楽な姿勢で”立ち上がるのに十分な高さでなければならないことと、最小の床面積 (ft²) は“イヌの鼻端から尾の先端までの長さに6インチを加えた値を一辺とし、それを平方フィートに換算した値”に等しくなければならないと記載されている。
- e. 自由に動くことができ、かつ高さ制限のない囲い（ペン、ラン、または小屋）が望ましい。

ペア飼育または群飼育している鳥類のための最小飼育スペースの推奨値

動物種	体 重	床面積/羽 ^a		高さ ^b	
	kg	ft ²	m ²	in	cm
ハト	-	0.8	0.074	-	-
ウズラ	-	0.25	0.023	-	-
ニワトリ	<0.25	0.25	0.023	-	-
	0.5まで	0.50	0.046	-	-
	1.5まで	1.00	0.093	-	-
	3.0まで	2.00	0.186	-	-
	>3.0 ^c	≥3.00	0.279	-	-

- a. 単飼いの鳥類には、ペア飼育あるいは群飼育の鳥類にくらべて、表に示されている1羽あたりの数値より広い飼育スペースが必要になる場合がある。
- b. ケージは、動物が脚を床面に置いて楽に直立できるよう、十分な高さがなければならない。
- c. より大きな動物には、その行動形態に合う、より広いスペースが必要な場合がある。

ペア飼育または群飼育している霊長類のための最小飼育スペースの推奨値

動物種	体 重	床面積/頭 ^a		高さ ^b	
	kg	ft ²	m ²	in	cm
サル類 ^c (ヒヒを含む)					
グループ1	1.5まで	2.1	0.20	30	76.2
グループ2	3まで	3.0	0.28	30	76.2
グループ3	10まで	4.3	0.40	30	76.2
グループ4	15まで	6.0	0.56	32	81.3
グループ5	20まで	8.0	0.74	36	91.4
グループ6	25まで	10.0	0.93	46	116.8
グループ7	30まで	15.0	1.39	46	116.8
グループ8	>30 ^d	≥25	≥2.32	60	152.4

備考：ケージは、動物が後肢を床面において楽に直立できるよう、十分な高さがなければならない。ヒヒ、パタモンキー、およびその他の足の長いサル類は、オナガザル科やオマキザル科のサル類などの他のサル類にくらべ、より高い飼育スペースを必要とすることがある。新熱帯区の多くのサル類および樹上性のサル類については、全体のケージ容積および直線状のとまり木を高い位置に設置することなども考慮する。枝にぶら下がるサル類については、ケージを十分に高くして、動物が腕を完全に伸ばした状態で、足が床面に触れることなく、ケージの天井からぶら下がることができるようにしなければならない。また、ぶら下がり運動がしやすくなるように、ケージの設計を工夫しなければならない。

チンパンジー (Pan)

幼獣	10まで	15	1.39	60	152.4
成獣 ^e	>10	≥25	≥2.32	84	213.4

備考：その他の類人猿や枝にぶら下がる大型のサル類については、ケージを十分に高くして、動物が腕を完全に伸ばした状態で、足が床面に触れることなく、ケージの天井から、ケージの天井からぶら下がることができるようにしなければならない。また、ぶら下がり運動がしやすくなるように、ケージの設計を工夫しなければならない。

- a. 単飼いの霊長類には、群飼いの霊長類にくらべて、表に示されている1頭あたりの数値より広い飼育スペースが必要になる場合がある。
- b. ケージの床面からケージの上端まで。
- c. マーモセット科、オマキザル科、オナガザル科、およびヒヒ属
- d. より大きな動物には、その行動形態に合う、より広いスペースが必要な場合がある。
- e. 体重50kgを越える類人猿を効果的に飼育するためには、通常のケージ内ではなく、常設の石づくりの建造物、コンクリート製の建造物、あるいはワイヤーパネル製の構造物で飼育するとよい。

家畜のための最小飼育スペースの推奨値

頭数／囲い	体 重	床面積／頭 ^a		高 さ	
	kg	ft ²	m ²	in	cm
ヒツジ・ヤギ					
1	<25	10.0	0.93	—	—
	50まで	15.0	1.39	—	—
	>50 ^b	≧20.0	≧1.86	—	—
2-5	<25	8.5	0.79	—	—
	50まで	12.5	1.16	—	—
	>50 ^b	≧17.0	≧1.58	—	—
>5	<25	7.5	0.70	—	—
	50まで	11.3	1.05	—	—
	>50 ^b	≧15.0	≧1.39	—	—
ブタ					
1	<15	8.0	0.74	—	—
	25まで	12.0	1.11	—	—
	50まで	15.0	1.39	—	—
	100まで	24.0	2.23	—	—
	200まで	48.0	4.46	—	—
	>200 ^b	≧60.0	≧5.57	—	—
2-5	<25	6.0	0.56	—	—
	50まで	10.0	0.93	—	—
	100まで	20.0	1.86	—	—
	200まで	40.0	3.72	—	—
	>200 ^b	≧52.0	≧4.83	—	—
	>5	<25	6.0	0.56	—
>5	50まで	9.0	0.84	—	—
	100まで	18.0	1.67	—	—
	200まで	36.0	3.34	—	—
	>200 ^b	≧48.0	≧4.46	—	—

頭数/囲い	体 重	床面積/頭 ^a		高 さ	
	kg	ft ²	m ²	in	cm
ウシ 1	<75	24.0	2.23	-	-
	200まで	48.0	4.46	-	-
	350まで	72.0	6.69	-	-
	500まで	96.0	8.92	-	-
	650まで	124.0	11.52	-	-
	>650 ^b	≥144.0	≥13.38	-	-
	2-5	<75	20.0	1.86	-
200まで		40.0	3.72	-	-
350まで		60.0	5.57	-	-
500まで		80.0	7.43	-	-
650まで		105.0	9.75	-	-
>650 ^b		≥120.0	≥11.15	-	-
>5		<75	18.0	1.67	-
	200まで	36.0	3.34	-	-
	350まで	54.0	5.02	-	-
	500まで	72.0	6.69	-	-
	650まで	93.0	8.64	-	-
	>650 ^b	≥108.0	≥10.03	-	-
	ウマ	-	144.0	13.38	-
ポニー (小型の馬)					
1-4	-	72.0	6.69	-	-
>4/ペン	≤200	60.0	5.57	-	-
	>200 ^b	≥72.0	≥6.69	-	-

a. 床面の構造を決定するにあたっては、動物が給餌器や飲水装置に触れることなく、向きを変えたり、自由に動いたり、いつでも飼料や飲水を摂取したりすることができるような飼育スペースを提供する。さらに、尿や糞便で汚れた区域から離れて、快適に休息することができるような十分な飼育スペースを提供する。

b. より大きな動物には、その行動形態に合う、より広いスペースが必要な場合がある。